

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 83

今月のテーマ

借りるということと 個人情報情報

ほとんどの方が、大なり小なりお金を借りたことはあると思う。ましてや近年のローン商品はカードなどの普及により、より身近に、より便利になった。結果として、その利用のし易さは家計の中に大きく進出し、我が物顔で家計のなかに陣取っている。

人生上の様々なライフイベントや予測しえない局面では、通常の家計のやりくりでは対応しきれないことも起こってしまう。交通事故や突発的な災害に対しては、殆どの場合、加入する保険で備えることも出来るが、全てが補えるわけではない。20代で、未だ貯金もそれほどない頃、複数の電化製品が壊れ、期を同じくして買い替える羽目になった時などは、実に有難かったものだ。近年の金融事情は、戦後の高度経済成長と共に飛躍的に発達し、そんな不測の事態にも対応できるようになっている。借りる以上、いつかは返さなければならぬし、それなりの金利負担もある。いくら金融が発達しても、ただで貸してくれる所など存在しない。近親者で貸し借りをする場合は、「出世払い」や「ある時払いの催促なし」なんてものもあったが、この場合は金融というよりは貰ったも同然だったようだ。

そもそも金融とは何か？辞書を見ると、金銭の融通。資金の借り手と貸し手のあいだで行われる貨幣の信用取引とある。では、信用取引とは何か？（ここでは株式の売買は考えない）現金を支払わずに商品を購入するため、“一定の金利を付けて返還することを約束”し、お金そのものを調達するクレジット等で、貸主から金銭を借り入れる契約（金銭消費貸借）の取引のことだ。金融の発達は明らかに借りやすくなったし、私たちの生活の安定にも大きく貢献してくれている。

さて、問題はこれからだ。金融の発展はお金を借りやすくしてくれたし、様々な返済方法も登場し、利用もし易くなっているが、当然に返さなければならぬのである。一見、消費者にとって良いこと尽くめのようだが、負担する金利の大小は、その人の信用度や資金使途の違いなどによって、驚く程の差がある。なぜか？そこには、「個人情報情報」成るものが、大きな関わりを持っているからだ。まずはその正体を知っておかなければならぬ。



信用取引の種類

日常生活の中で、「信用取引」という言葉はあまり使われないが、平たく言えば金銭の貸し借りだ。具体的には、①銀行や消費者金融などの金融機関での借入れ、②ショッピングローンを組んで商品購入、③クレジットカードでの商品購入、④クレジットカードを使ったキャッシングなどで、良く利用される取引が、いわゆる信用取引なのである。何気に発行されているカードには、それぞれに利用限度の枠が設定されていて、この枠自体には、「個人情報情報」が反映される。

また、貸す側は、カードの発行や個別の取引の際に、借りる側に返済能力があるかどうかを客観的に判断するための参考資料として、必ず信用信息を取りに行く。その結果として、「貸すか貸さないか」の判断や金利などの返済条件が決定される。ということは、日頃私たちが見ることの無い信用信息は、知らないところで閲覧され、通信簿ではないが、その人の信用度が定量的に評価されているのである。学校の通信簿は見たくなくても渡されるが、信用信息は一定の手続きをしなければ見ることが出来ない。気になるなあ……？

個人情報機関とは何者？

個人情報情報なるものは、何者だ？と首をかしげている方もいるかもしれない。また、自分の個人情報や、金融機関によって知られるのはケシカランと思いの方もいるようなので、その正体を探ってみよう。



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

住宅ローンの見直し相談会実施中!!

ひとつでもあてはまる方は、お気軽にご相談ください!!

- 現在の返済額を軽減したい
- 住宅ローンを借りているが、一度も見直したことがない。
- 現在借りている住宅ローンの内容がよくわからない。
- 借換と繰上返済、それぞれの効果を比較したい。

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

●営業時間：9:30~19:00 ●休休日：水曜日

TEL 018-827-7611

FAX 018-827-7610

URL <http://tls-akita.co.jp>



詳細はホームページでもご覧いただけます。

「信用情報機関」とは、私たちの個人信用情報の収集及び提供を行う機関である。個人情報扱う割賦販売法では「信用情報の収集並びに割賦販売業者等（割賦販売業者、ローン提携販売業者及び割賦購入あっせん業者）に対する信用情報の提供を業とする者」とされ、また貸金業の規制等に関する法律では「資金需要者の借入金返済能力に関する情報の収集及び貸金業者に対する当該情報の提供を行うもの」とそれぞれ規定している。「信用情報機関」は、個人を対象とする場合、経済産業省の「指定信用情報機関」として、日本では次の三つの機関が存在する。

- ① 全国銀行個人信用情報センター
- ② 株式会社シー・アイ・シー（CIC）
- ③ 株式会社日本信用情報機構（JICC）

これらの信用情報機関は、公的に認められているものであり、個人の信用情報を会員である金融機関から収集・管理し、提供している機関である。では、具体的にどんなことをやっているのだろうか？

消費者から、ローンやクレジットの申し込みを受けた金融機関等は、消費者の信用力を確認・判断するために、信用情報機関に登録されている消費者の信用情報を、会員会社の求めに応じて提供する。平たく言うと、金融機関等が貸すか貸さないかを判断するための個人信用情報の請求に対し、会員会社に情報を提供しているという具合だ。情報提供を受けられる会員会社とは、銀行・信用金庫・農協・漁協・貸金業者・携帯電話会社などの会員に限られており、私たちの個人情報も本人と会員会社（銀行やカード会社等）以外の第三者に提供されることはない。とは言っても、情報が提供されること自体には、あまり心地いい感じはしないが、「貸過ぎ、借り過ぎ」による多重債務の防止や、消費者と会員会社（金融機関等）との健全な取引を支える上でも、重要な役割を果たしている機関と言えるかもしれない。

● そもそも個人信用情報とは

前述したように、金銭の消費貸借の際には、必ずと言っていいほど「個人信用情報」の確認がなされる理

由はお分かりいただけたと思うが、その結果として、住宅ローンの審査に通らなかったり、マイカーローンが組めなかったり、クレジットカードの発行が出来なかったりすることがある。これは、ローン等を組もうとする時にされる「審査」の段階で、個人信用情報の記載内容により融資できないと判断されたことが多い。その原因は、携帯電話の料金支払いの遅れだったり、奨学金返済の遅れだったりということがある。携帯電話の料金の延滞がなぜ…？と思うかもしれないが、近年の携帯電話の購入形態が、機種代金と通話料金とを合わせた請求になっているため、携帯機種代金の分割払いを延滞していたという情報が記録されるためだ。たかが携帯電話とき、されど…！

では、「個人信用情報」とはどのようなもので何が記録されているのだろうか。「個人信用情報」は、クレジットカード、ローンなどの借入契約時に利用されるもので、その情報として記されている内容は、①本人を特定するための情報、②契約内容に関する情報、③返済状況に関する情報、④取引事実に関する情報などが記載されている。（※別表参照）

項目	主な情報
本人を特定するための情報	氏名 生年月日 性別 住所 電話番号 勤務先名 勤務先電話番号
契約内容に関する情報	会社名（銀行、カード会社） 契約の詳細（商品名、支払回数等） 契約日 利用金額等
返済状況に関する情報	入金日 入金予定日 入金残高 完済日 延滞の有無
取引事実に関する情報	債務整理 代位弁済 強制解約

氏名、生年月日などの基本的個人情報に加え、ローンやクレジットカード等の借入金額や延滞などの返済状況などの利用情報が驚く程に細かく記載されている。さらには、ローンやクレジットカードの申し込みの事実があったことまでもが記録されているのだ。要するに、お金の貸し借りに関して、この人はどういう人で、どこからいくら借りていて、返済は滞っていないかどうかを把握するために、返済は滞っていないかどうかを判断するための情報は信用できるか出来ないかを判断するための

情報なのだ。嫌な言い方になるが、台所事情が丸見えの状態なのである。

別の言い方をすると、「個人信用情報」は社会的な信用度がこれによって計られているといっても過言ではない。信用の度合いが低いと判断され、イザという時に融資を受けられないことは、家計を安定的に維持すること自体に影を落としかねない。仮に、受けられたとしても保証料が高額になったり、金利が通常より高くなったりしてしまう。もし、信用情報に延滞や債務整理などの事故情報があったりすると、最悪の場合では分割払いやカードの利用ができなくなってしまう。そして、その事故情報はその事実が解消されたとしても簡単には消えない。

このような、貸し借りに関する個人情報の取扱い内容を知ることとは、金銭の貸借における金融機関等との関わり方を改めて意識することになるし、家計の健全な維持・管理をする上でも重要なことだ。もし、少しでも思い当る方は、自身の信用情報がどういう風に記載されているかを確認してみよう。各3社とも1件1000円で入手可能だ。

● 融資の分類と特徴「クレジット」

借りるということが信用取引であることは前述したとおりであるが、その是非を端的に言えば、「信用されるか、信用されないか」だ。先月号で、借りる人によって金利が大きく違うことを解説したが、その違いは、信用度が高いか低いかである。

安易なキャッシングやカードローンの多用は、給与収入がその返済のために消費、使えるお金を少なくする。使うお金がないのでまたキャッシングという悪循環になり、やがて多重債務となり家計の崩壊へとつながりかねない。将来に必要とするお金は、少し考えれば容易に見えてくる。必要とする時期に備え、コツコツと貯めて行けるような家計を目指したい。買ってから払うか、今少し我慢して、貯めてから買うか！どっちが良いか…？

来月号は「これまでの「借りる」に対し、貯めること」に着目し、貯める目的とその手段について考えてみよう。